

はくせんさん

魂は通じている

第69号 H21年3月

伊豆市法住寺 発行

裏庭の池の水量が増え、日毎に水が温んでいます。この池に今年も大きなカエルが産卵にやってきて、鯉と一緒にゆつたりと泳いでいます。春の訪れは何とも良いものです。

先だって先代智雄上人弟の叔父を亡くしました。幾つもの会社重役の責を果した風格を備え、頑固ながらも駄洒落なども飛ばすユーモアも持っていました。叔父には子供がいまいませんでしたから、身内として出来るだけのこととはしよう、長い間訪ねてきた特別な叔父でした。

* 初七日忌、二七日忌、……と一週間ごと

に叔母と共にお題目お供物をあげ、四十九日忌となりました。亡くなってからこの日まででは中有といった、次の世界の場所が定まらなかったのですが、この四十九日忌を

以って決定けつじょう、住む場所が決まり定まるのです。私は今まで多くの方に引導をお渡しし、霊山を見上げきちんと定まってくださいと祈ってきました。その霊山がどんな所か、想うことまで至りませんでした。今回、特別な叔父だったからでしょう、叔父が成仏して決定した場所のことを、ごく自然に想ったのでした。

*

『わああく！ 何と限りなく伸びやかで澄み渡り暖かなことか。しかも何と安らかなことか。』

おおう、娑婆世界の一人ひとり、色々な事がよく見える。それにまた、気持ちも手に取るようによく分かること。こんなに皆と気持ちが繋がっているとは、凄いい世界だ！』

*

気持ちは通じているだろうと思っていました。それが、それは確信となりました。気持ちと言うより「魂」と言った方が良いと思います。

日蓮大聖人は、この魂の世界を一念三千という法門で説き明かします。この宇宙全世界を「三千」という観法で分類し、私たちの一念（思いや行い）の中に、その三千

の世界が具わっていると示されます。私たちの思いや行いは、广大で不滅な魂の世界と相通じているというのです。

例えば、何時も愚痴や文句ばかり言っている人は、魂が愚痴の世界と頻繁に行き来するので、浄化されないエネルギーが沈殿し、ますます愚痴っぽい世界に入り込んでしまいます。逆に何時もありがとう、ありがとうと感謝の気持を持っていると、魂が感謝の世界と行き来するので、良いエネルギーが自然に湧き出て、ますます心豊で満たされていくと言うことです。

そうした愚痴や感謝の世界は、三千の世界の一つなのです。

医者の手では治らないと見離された方が、お題目を一心にお唱えして治ったという現実の話があります。お題目は一念三千を包み込んでいるので、お唱えする程に魂の世界との交流が活発となり、魂が浄化されていきます。その結果、私たちが本来持っている免疫力や治癒能力が増し、病が治ったということでしょう。この治癒能力ということも三千の世界の一つなのです。

*

科学の世界を覆い包む大きな存在を、叔父は示してくれていると思っています。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

笑顔の中の菩薩さま

Sちゃんは、育ち盛りの三人の子供たちのお母さん。以前はお風呂屋さんで働いていましたが、あいにくのリストラで、今は老人介護施設でヘルパーの仕事をしています。まだ三人目の子供が二歳くらいですから、朝から晩まで追われるような忙しさの日々を過ごしていることと思います。会う時は何時だつて赤ちゃんを抱いていた。そのSちゃんが、これ又介護の仕事をしていると聞いて、さぞかし疲れ果て、ヘトヘトになっている姿を想像しておりました。



春ついでに春を喜びます

*
そんな中、先日、久々にSちゃんと会うことが出来ました。「ねえ、介護の仕事も大変でしょう？」と、思わず聞いてしまいました。とこ

ろが「楽しいですよ！いろんなお年寄りに会えてすごく楽しいですよ！」と、それこそ輝く笑顔で答えるのです。私はその輝いている笑顔に圧倒され、こんな気持ちのSちゃんにお世話をしてもらっているお年寄りたちの幸せを思いました。

「そんなに毎日が楽しいって何故かな？」そう聞いたかった私ですが、その時は、その笑顔に圧倒されて、聞かずじまいでした。

*
ただ今思うに、Sちゃんの子育てや家事という、追われるような日常の中で「最新の知識や情報は持っていないなくても、若い人には思いもよらない知恵やゆったりとした感覚を持っている老人の生きる姿」が、彼女に何かほつとできる安らぎを与えてくれている様な気がするのです。「毎日、楽しいですよ！」と笑うSちゃんは、人のお世話をすること、又、自分も救われているのかもしれない。その人たちをケアすることによって自分の命も保たれる、その「菩薩さま」の笑顔をSちゃんの中に見た一瞬でした。

護持会からのお知らせ

二月十三日、護持会役員会が開かれ、次のような内容が話し合われました。

お会式

毎年、十月最後の日曜日に行っています。今年の二十五日(日)は一乗寺お会式と重なります。一乗寺さんは曜日に関係なく毎年二十五日と決めていますので、当山は前日の二十四日(土)と決めました。宜しく願います。

永代供養塔

永代供養塔の建立は、本堂建設の検討段階からの課題でした。皆さんが返済して下さっている本堂建設金返済終了まで待ちたいと思いましたが、お預かりするご遺骨も多くなり、これから希望者が出てくること予想されますので、具体的な検討を始めることになりました。志納金を使わせて頂き、住職の資金を加えて考えていきたいと思えます。

境内整備

先日、春の境内整備が「元村2」のご奉仕で行われました。第二墓地道路向いの孟宗竹を処理して下さり、明るく良い景観に

なりました。ありがとうございました。今後の予定は、「夏・小川、秋・清水2、年末・元村3」です。宜しく願います。

本堂での通夜・葬儀

先日も本堂での通夜・葬儀が行われ、大変に有難かったと感謝されました。大手の葬儀社にお勤めという方が参列されていましたが、本堂でのお通夜・引導・葬儀、各種配慮に感激され、社長に直ぐに報告したいと言って帰られました。経費も随分助かっているようです。駐車場の問題はありますが、これからもご利用ください。尚、収容人数は椅子席で数人〜百四十席、座布団も含めると百八十席までは用意できません。また書院を使つての食事は、自分たちで用意する事も出来ますし、一切を業者に頼む事も出来ます。

身延山輪番奉仕

宗務所主催の身延山参拝です。一年に一度は、大聖人の御廟所（お墓）にお詣りし、お掃除する気持ちだけでも捧げたものです。今年は五重塔が落慶しましたので、新しい仏塔もお詣りできるもの

と思います。

期日 六月七日（日）
会費 一万二千元

トピックス

星祭の

私たちは、自分の星「本命星」のもとに生まれます。また年ごとに回りくる吉凶の「当年星」も、生まれ年により定まります。この本命星と、当年星を「供養、清浄にし、一年間の除災得幸、開運を祈る「星祭り」

が行われました。

一年前に大荒行を成満した洋明上人が、その経力を以つて皆さんの新年の息災開運を祈りたいと、始

めた行事です。当日一月二十五日は、朝から大勢の皆さんが参詣、ご祈禱をうけられました。大寒の寒さの中まず水行で身を清め、その後、ご祈禱。澄んだ空気の中に読経の音が響き渡り、天空の本命星、当年星までご供養をお届けしました。

当日のご祈禱札に毎朝手を合わせお題目をお唱えして、息災・開運の道を開いてまいりましょう。

植樹

境内周辺の整備が徐々に進み、植樹を毎年行っています。そうした樹木が成長した時の姿を夢見ることは楽しいものです。

第一墓地の右側斜面は北向きで、石楠花（しゃくなげ）に適しているようです。この斜面に総代の佐藤雄一さんが、二十本余の石楠花を植樹してくれました。二、三十年位すれば石楠花が咲き乱れる素敵な墓地になると思います。

また本堂西側の斜面は、暫く手が入らず、ボサボサしてきました。そこで私が竹やらボサやらを整備しました。この斜面は冬の強風を避ける防風林の役目があります。以前から楠木が欲しいと思っていましたので、今回、二本植樹しました。二、三百年後に



鬼子母さまの御宝前（じ）加持



ことと思えます。



洋明さんのおはなし

春は新しいことが始まる季節です。境内の草木の芽吹き、新学年、新社会人、花粉症、色々なことがはじまります。私たち家族もありがたいことに仏さま、皆さんのお蔭で、長男（大洋）がこの春、小学生になります。と同時に私たち夫婦も小学生の子を持つ親としての始まりを迎えます。

は、風格ある大木になって冬の西風から本堂をどつしりと護ってくれる

先日あるお寺さんの掲示板に次の様な意味のお説教が貼ってありました。「バラは大変美しく誰もが好きである。ただそのバラも花の部分は美しいが、茎には痛いトゲがある。人間とはバラの様なもの。どんなに出来た人も、人の花の部分は好きでもトゲの痛みまでは好きになれない。人間とはそんなものである。」どんなに仲の良い家族や心許せる友達でも、その人のすべてを好きになれるわけではないということです。このお説教を見たとき、私は日蓮聖人に頭をなでられたような気がして、何か心がほっとする気がしました。私は気がつかないうちに誰にも好かれたという気持ちがあり、何時も心のどこかが緊張していた気がします。そんな私に日蓮聖人が「もつと肩の力を抜いて気持ちを楽に持ちなさい。もつと素直に質直意柔軟（しじじきにゆうなん）に」とおっしゃって下さったのではないかと思いました。

*

質直意柔軟とは、皆さん馴染みのあるお自我偈の一説です。心を素直に柔軟に持ちなさいという意味です。そうすることで今まで気がつかなかったこ

*

とに気づいたり、見えなかったことが見えたりするのです。

私は、物事はこうであらねばならないという気持ちが強かったのだと思います。もちろん直に変わるわけではありませんが、これからは良い意味で、本当の適当、本当に自分に適した道を見つけていければと思います。

先述のように春は新しいことが始まる季節です。皆さんの中にも新しいこと、新しい環境が始まる方がいらっしゃると思います。しかし中には、様々な壁にぶつかるともあると思います。ただその都度、「こうでなければならぬ」だけでなく、ほっと一息「質直意柔軟」に、良い意味での適当を探すことをしてみたいかがでしょうか。

*

壁にぶつかったとき、行き詰まったときは、是非お寺へお越し下さい。そして本堂の仏さま、日蓮聖人の前に座り、手を合わせ、心を落ち着かせてお題目をお唱えして下さい。きっと皆さんにも「もつと肩の力を抜いて気持ちを楽に持ちなさい。もつと素直に質直意柔軟」と仏さま、日蓮聖人の心の声が聞こえてくると思います。

御志納金「二月〜三月」

百万円 沼津市 瓜島宏子殿 夫君葬儀砌

五万円 清水 小塚節子殿 夫君七回忌砌

第一墓地石楠花多数植樹 西 佐藤雄一殿